

新たな価値を生み出す山梨県立美術館ビジョンの概要

策定の背景

- ・ 県立美術館は、開館当初より、自然豊かな農業県にふさわしいコレクションを形成する考え方のもと、ミレー・バルビゾン派の絵画を継続してコレクションし、特色ある公立美術館として高い評価を得てきた。
- ・ 一方で、社会状況の変化、コロナウイルスの影響による活動の制限やデジタル技術の急速な発展などを背景に、ミュージアムは多様化・高度化した役割を担うことが求められている。
- ・ 令和10年に県立美術館が開館50周年を迎える中、「文化立県」を目指す本県に相応しい美術館に向け、新たな歩みを進める方向性として本ビジョンを定めるもの

課題の整理

- ・ 館ならではの独自性のあるコレクションとして、更なる成長を実現する必要がある。
- ・ 地域の活力を向上させるため、優れた現代美術作家との協働が必要。

- ・ 飛躍的に進歩するデジタル社会を踏まえ、館活動から生まれる情報の整理・蓄積・活用を推進し、利用者にとって、価値のある情報として提供する必要がある。

- ・ 美術分野だけではなく、教育、福祉、国際交流まちづくり、観光、産業など、美術館に昨今求められる、新たな役割を果たす必要がある。

- ・ 多目的に人々が集い、くつろぎ、繋がる場を創出する必要がある。
- ・ 山岳景観や、四季折々の自然を楽しめる公園など、地域を象徴し、人が集うコンテンツとなり得るよう、活用を促す必要がある。

- ・ 昨今求められる拡大した役割を果たすため、業務の専門性に即して、最適な館組織・人員体制を構築するとともに、多様な主体と連携体制を構築する必要がある。

ビジョン：共に成長し、新たな価値を生み出し、地域活力の向上に寄与する、社会に求められ続ける美術館

取り組みの柱

I 特色あるコレクションの成長

- ・ 山梨ゆかりの作家の範囲を拡大し、館が協働した現代美術作家を収集対象として検討。
- ・ 地域に根ざしたユニークなコレクションとしての成長を実現。

II 情報・知見活用による価値創出の強化

- ・ 最新のデジタル技術の動向を踏まえ、館が蓄積する情報・知見からコンテンツを創作。展示、研究、ふるさと納税返礼品等へ活用。
- ・ 文化、社会・経済的価値を創出し、芸術家の活動支援や、館活動への還元を実現。

III 五感に響く美的体験の提供

- ・ 利用者が、視覚だけでなく、五感を通して、アートの価値を体感できる様々な取り組みを推進。
- ・ ラーニングプログラム、レストラン・カフェ、ショップ、デザイン分野への取り組みを強化。

IV 「集い」、「出会う」場としての機能強化

- ・ 地域内外の利用者が、多目的に「集い」、一人ひとりが新しい価値と「出会う」ことを促す、館内外空間の充実を実現。
- ・ 日常と非日常を繋ぐアートの価値を体感できる場づくりを促進。

V 成長を実現する体制の整備

- ・ 目的に即して、最適な館の人員・業務体制を検討。
- ・ 関連分野の外部組織（ex. 産業分野、芸術振興分野等）との連携体制による社会の活力向上への寄与。
- ・ 社会の動向や利用者の声などを常に把握し、事業の改善を実施。